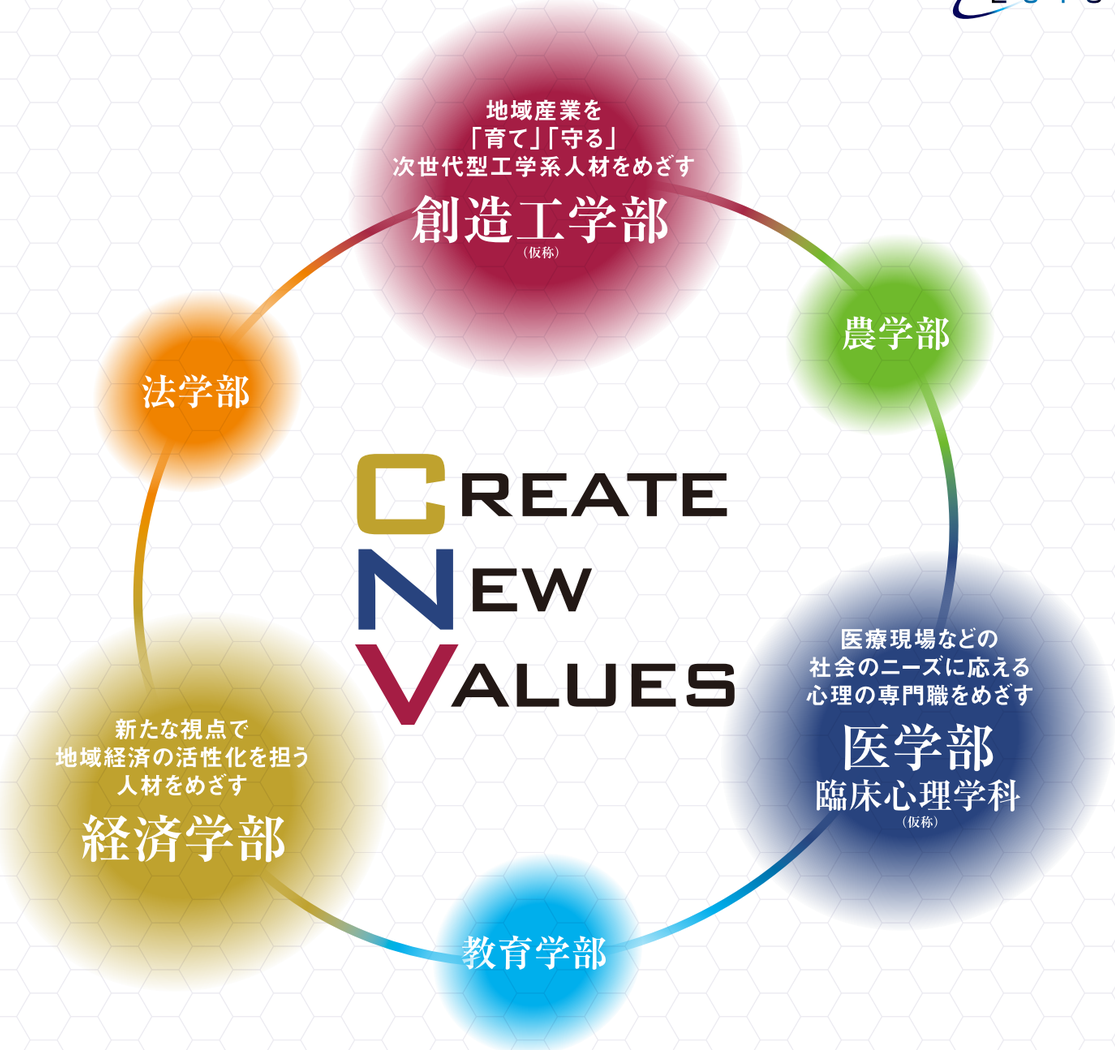
香川大学
改革構想
2018



香川大学改革構想特集【第2部】

キーパーソンに聞く
新学部からはじまる新しい未来

**香川大学では平成30年度（2018年度）から
全学改革が行われます。
本誌第1部でもお伝えしたように、
創造工学部(仮称)、医学部臨床心理学科(仮称)の新設、
経済学部の機能強化が行われ、
地域活性化の中核として、地域のニーズにそった
新たな人材育成に取り組んで参ります。**

※本大学改革は現在構想中のものであり、今後変更することもあり得ます。また、新学部・新学科及び各コースの名称はすべて仮称です。

イノベーション人材が生み出す
ひとを幸せにするものづくり

香川大学理事・副学長
（研究・評価担当）
筧 善行
Yoshiyuki Kakehi
かけひ　よしゆき
香川大学医学部教授、医学部附属病院副病院長、香川大学副学長を経て、2015年10月より現職。大学改革構想では創造工学部の新設を担当する。医学博士であり、専門分野は泌尿器科学。

工学部を基盤としながら従来の工学教育の殻を破った全く新しい新学部、創造工学部(仮称)の設置を平成30年度から予定しています。ものづくりとイノベーション、リスクマネジメントを同時に学ぶユニークな学部です。日本は先進的な工業製品を作り輸出するものづくり大国として世界に伍してきました。しかしいま、欧米や日本など成熟した社会はもとより新興国でも、人々が本当に持ちたいと思う付加価値の高いものがより強く求められています。つまり人を幸せにするものづくりが問われているのです。その中で理工系人材の育成も変革を迫られています。理工系の基盤的知識や技術に加えて、消費者を理解する力や審美力を磨き、人々が真に求める独創的なものづくりができる人材育成が必要です。創造工学部では工学系人材教育の柱にデザイン思考能力の育成を据え複合的な視点でイノベーション人材を育てます。

イノベーションにはリスクも表裏一体で存在します。製品の安全性、情報セキュリティ、災害等の社会的リスクの他に、今後は思いもよらないリスクも出てくることでしょう。工学こそリスク管理は必要不可欠。新学部では全員が一年次から学びます。

これら「デザイン思考能力」と「リスクマネジメント能力」は創造工学部での教育の二本柱です。デザインとは創造する行為そのものを指します。創造力には個人差があると思われがちですが、自分の創造力を解き放つ方法を学べば誰でもクリエイティブになれるというのが私たちの考えです。学生は多彩なプロジェクトに携わり、チームの中で自分のアイデアを堂々と伝え、そこに他人の意見が加わって新しい価値を生み出す方法と楽しさを体得します。学外プロジェクトも重要です。本学では防災士養成コースで学ぶ学生が増えていますが、学外では実に多くのものを得て帰ってきます。

創造工学部では学生の潜在能力、隠れた可能性を引き出し、自分で飛べるエンジンを持った飛行機のような人を育てたいですね。飛ぶスピードは速くても遅くてもいいのです。自力で飛びたいと思うさまざまなタイプの学生が育ってくれたらと願っています。

自然や社会環境が大きく変化するいま、大事なのは考え方、コンセプトです。新しい問題も、原則的に順序立てて考える訓練をすれば必ず答えは出ます。私たちの卒業生は未知の課題に直面しても、それを解きほぐし新しい提案ができると社会に思われるようになりたいですね。香川にはユニークなものづくり企業が多数あります。香川から世界の人々を幸せにするものづくり産業をさらに活性化させる、その原動力となる人材を育てることが、創造工学部の役割です。

医学部 臨床心理学科（仮称）

香川大学改革構想2018

心理学と医学の基礎を融合し地域のニーズに応える専門職を

香川大学医学部長

今井田 克己

Katsumi Imaida

いまいだ　かつみ

香川大学医学部医学科 病理病態・生体防御医学講座 腫瘍病理学 教授。大学改革構想では医学部臨床心理学科の新設を担当する。医学博士、専門は病理学。

新学科は、全国の国立大学医学部では初の「医学部臨床心理学科」の設置となります。心理学と医学の基礎を融合したカリキュラムが特徴で、医学的素養と実践力を備えた心理の専門職を養成する先進的な学科と言うことができます。

臨床心理学は今まで一般的に文系の学問とみなされていました。本学でも現在、教育学部の人間発達環境課程・発達臨床コースで学ばれており、地域に心理職者を輩出する場として大きな成果を上げて来ました。一方、社会に出て働く心理職者への調査で、「学生時代に医学を学んでおきたかった」という人が多数存在することも分かっています。そのような意見も踏まえ、教育学部での従来の教育を受け継ぎながら、心と身体の関わりの理解に役立つ医学の基礎知識を身に付け、重要な心的疾患や障害についても学べる場として、新学科を創設します。今後、他大学にも広がるであろう流れを、本学でいち早く実現するものです。

医学部に属するメリットとして、医学科、看護学科の学生と共に学ぶことで、チーム医療や多職種連携における心理職の役割や協力の仕方が身に付くことがあげられます。もちろん医学科、看護学科の学生にとっても、全く違うバックグランドを持つ学生との学びが、よい刺激になることは間違いありません。またカリキュラムの中にはさまざまな体験実習も含まれ、附属病院や教育・福祉施設で、各々の現場の状況を理解し、利用者や職員との交流も図れます。

心理職の活躍の場は、保健・医療、教育、福祉、行政、司法分野など多岐にわたります。中でも近年、医療現場でのスクールカウンセラーの導入、多発する大規模自然災害の被災地での心のケアなどにおいて、特にニーズが高まっています。

さらに香川の地域の課題として、全国でも特に高齢化が進んでいるため、認知症などの疾患や高齢者のメンタルヘルスのケアはこれからより重要性を増すでしょう。また近い未来に起こるとされる南海トラフ大地震発生時に、被災者の心のケアが行え、急性期に機動的に活動する医療チーム・ＤＭＡＴにも加われる心理職者の育成は急務です。防災・危機管理研究を重点研究と位置付け、大規模災害時に力を発揮する研究や人材育成を担う本学の新しい力としても期待されます。

２０１５年に公認心理師法が公布され、国家資格となる「公認心理師」が誕生することになりました。新学科での学びには、この受験資格を得るための授業も含まれています。そして、学科卒業後に大学院に進学し、修士課程を修了すると公認心理師の受験資格が得られます。本学でも新学科の設置に続き、大学院を設置する計画です。

経済学部

地域経済の活性化を担うひとづくり未来を見据えた学部機能強化

香川大学理事・副学長
（企画戦略・特命担当）

清水 明

Akira Shimizu

しみず　あきら

文部科学省、佐賀県教育委員会副教育長、文化庁、宮内庁侍従をなど経て2016年4月より現職。大学改革構想では経済学部の機能強化を担当する。

新しい経済学部の目的は、地域創生を担う経済・経営人材の育成を強化することです。そのため、経済学部は現在の３学科（経済、経営システム、地域社会システム）から１学科５コース制、具体的には経済学科の下に「経済・政策分析」「経営・イノベーション」「会計・ファイナンス」「観光・地域振興」「グローバル社会経済」の５コースを設置する予定です。観光とグローバルについてはこれまで専門履修プログラムで取り組んできた実績を活かします。観光資源を活用し地域に貢献できる人材や、世界で通用する人物の育成は、自治体や民間企業からの強い要請でもありました。

学生の皆さんにもプラスの変化だと自負しています。今まで学生は出願の時点で学科を選ぶ必要がありましたが、今後は入学後に自分に合うコースを選べるようになり、自分の適性やめざす将来に柔軟に対応できるようになります。１年次は経済・経営・会計など経済学全般を学び、２年次後半に希望するコースを決定。これは、幅広い知識を持ちつつも専門性に秀でる複眼的視点を養うことを意図しています。教員も複数コースを担当し、ゼミでも複数のコースから希望する学生を受け入れます。例えば、将来は自治体で観光政策の仕事に就きたいと志望する観光・地域振興コースの学生が、経済・政策分析が専門の教員のゼミに所属することもできます。多様性のある学生が集まれば、ゼミでの議論や活動がより活性化することでしょう。これらの方針については２０１６年８月のオープンキャンパスで実施した高校１・２年生対象のアンケートでも好意的に受け取られており、手応えを感じています。

経済学部の強みである少人数教育やフィールドワーク、アクティブラーニングは今後もさらに強化します。課題について自ら調べ、他者と協働し問題解決の道を探る主体的人材は社会から強く求められています。フィールドワークやインターンシップは学びと同時にコミュニケーション力を磨く場です。経済学部では自ら行動する学生を「学生チャレンジプロジェクト」で支援しているのですが、そこで生まれた「地元再発見の旅プロジェクト（またたび）」、「Ｂｏｎｓａｉ☆Ｇｉｒｌｓ Ｐｒｏｊｅｃｔ」は新しい地域活性化の取り組みとして学外に広がっています。このような若い世代の活躍は地域にとってもよい刺激になると確信しています。地域だけではなく海外で学ぶ機会が多いのも本学部の特長なのですが、短期海外研修や留学にもより一層力を入れていきます。

香川大学経済学部の新しい魅力で、香川で学びたい、香川に住んで地域を盛り上げたいという卒業生が増えれば嬉しいですね。経済学部は教育・研究の両面から地域に貢献していくという強い意志で、今回の改組を進めてまいります。